

評価報告概要票

全体を通して(このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>漁港を抱く湾の山の中腹に位置し、眺望はよく静かな環境に恵まれている。ホームの周りは車の通行量も少なく、緑豊かな散歩道は、森林浴にも適している。建物は二階建てで居室の殆どが海に面して明るく、建物の周囲は、ちょっとした畑も作られていて、園芸作業も楽しめるようになっている。</p>	
分野	特記事項(優先順位の高い要改善点について)
運営理念	『自分の親と思って…』を理念として要所要所に掲げ、親身になって介護に当たるように努力している。しかし、立地条件が、近隣住宅から離れているため、地域とのかかわりを深める点での工夫が望まれる。
生活空間づくり	居室は殆どが海に面して、明るく、部屋からのロケーションは素晴らしい。居間ではテレビを見たり横になったり好きなようにくつろげるようにソファなどもおかれている。ハード面での困難さがあるかと思うが、食堂が、一部はきちんとした部屋であったが、一部が廊下に位置しているため、衛生上も、気分的にも少し配慮が望まれる。
ケアサービス	職員は、まったくの初心者は少なく、同一法人内での特養での経験者や、デイサービスでの経験者が多く、平均年齢は50台前半であり、人生経験においても介護の経験においてもベテランの人たちを配して、入居者に対する対応も落ち着いている。が、「預かってさえもらえれば有難い、すべてお任せします」といった家族が少なくない中で、家族の意向を如何に多くみ出すかという点で工夫が期待される。
運営体制	地元中学生の職場体験の受け入れや、介護職実習の受け入れなど外部とのかかわりに努力しているが、なお一層地域とのかかわりを深める上でも中断したままになっているホームの広報誌の発行を復活して、地域や家族との絆づくりに役立ててもらいたい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数
		外部評価
運営理念		
運営理念	4項目	3
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	2
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	4
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	6
介護の基本の実行	8項目	7
日常生活行為の支援	10項目	9
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	7
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	1
運営体制		
内部の運営体制	10項目	5
情報・相談・苦情	2項目	2
ホームと家族との交流	3項目	2
ホームと地域との交流	4項目	4

評価報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。				朝礼や、全体会議はもとより日常的にあらゆる機会を利用して話している。	
2	3 運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。				「自分の親と違って」との運営理念が各フロアのみやすいところに明示してある。	
3	4 権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。				契約書に明示されており、入居者、家族にわかりやすく説明し、同意を得ている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)				同一法人同士の共同のイベント(盆踊り大会や花火大会など)を催して地元の人たちの参加も呼びかけているが、グループホームだけの行事は取り組まれていない。又、家族宛に、「ホームだより」を季刊で発行して、啓発に努めていたが、現在休刊中である。	「ホーム便り」の復刊および継続を図り、内容において地域への啓発も含めたものになるように工夫を期待したい。
運営理念 4項目中 計		3	1	0		
	生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)				玄関周り等の雰囲気としては特に違和感も威圧感もなく出入りがしやすい感じで、よく掃除が行き届いている。	
6	7 家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。				玄関、トイレ、浴室、台所、等はいずれも家庭的な雰囲気を有しているが、食堂の一部が廊下になっており、落ち着いた雰囲気である。	食堂の一部が廊下になっていて、なんとなく落ち着かない感じがしているので、食事をする人以外の行き来をカバーし落ち着いて食事が楽しめるようにされるとよい。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。				ソファや椅子が随所においてあり、ソファに横になっている人やテレビを見ている人など思い思いにくつろいでいた。	
8	9	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。				持込は自由であるが、お気に入りのものを持ってきている人もそうでない人もいて、しかしそれぞれに、居室になじんではいた。	最低限必要なものだけをおいているところもあり、シンプルではあるが、ともすれば、殺風景になりがちであるため、そうならないような配慮を期待したい。
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			2	2	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)				要所要所への手すりの設置はもとより、洗面台の鏡の角度にも変化をもたせるなどの配慮が見られた。	
10	13	場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をごさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)				各部屋の目印や名札など工夫はされているが、たまたま調査の際、入居者の方が一人自分の部屋がわからなくて、迷われていた。	目印等にもう一工夫が望まれる。
11	14	音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)				生活の音、会話のトーンなどは適切で、入居者の方たちに落ち着きが見られた。	
12	15	換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。				立地条件のよさを活かし、部屋の戸を全開にして心地よい外気をふんだんに取り込んでいた。	
13	17	時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。				居間の壁の高い位置にモダンな時計が設置されていて、入居者にとっては、設置位置も時計そのものの形状もとても見えにくいものであった。	時計の設置場所や、時計そのものを見やすいものに取り替えても良いのではないか。
14	18	活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)				園芸活動に力を入れていて、野菜作りやはな作りを楽しみ、又、収穫も楽しんでいる。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			4	2	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。				入居者一人ひとりの特徴を踏まえた介護計画を作成している。	
16	21	介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。				職員のすべてが介護計画の内容を知ることが出来る仕組みが作られていて、意見も反映できるようになっている。	
17	22	介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。				入居者や家族の意見を反映すべく努力をしているが、家族の中にはホームにまかせきりの傾向の強い家族もいて、その意向のくみとりが困難な場合もあり、どのようにしていくか検討中との事である。	「お任せ家族」が少なくない中で、どのようにして、家族の意向を汲み取るかという点での工夫を要する
18	23	介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。				問題があると、その都度見直しをしている。	
19	24	個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。				一人ひとりの記録を作成している。	
20	25	確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。				朝礼や、全体会、その他、日誌やボードへの記載、又その都度口頭での伝達等確実に行われている。	
21	26	チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。				全体会での検討や、適時意見交換を行うなどチームとしてのケアを行う上で必要な職員の合意を得られる仕組みを作っている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)				一人ひとりの尊厳を傷つけるような対応は見られず、さりげない介助が行われている。	
23	28	職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気です。				部屋を間違えた人への誘導の仕方など、穏やかに、しかも明るく行われている。	
24	30	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。				入居者一人ひとりの経験や生活歴などを職員はよく把握して居り、会話や介助に際し活かされている。	
25	32	入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				起床、食事、入浴等において極力入居者のペースを乱さないように努力している。	
26	33	入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)				買い物援助、美容室への外出等入居者の希望を聞いて援助している。	
27	35	一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)				食後の後片付けや洗濯物の片付けなど、出来ることは声かけや見守りのみで自分でするように援助している。	
28	37	身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。				身体拘束のないケアを実践するように職員間で認識を深めている。	
29	38	鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)				玄関は夜間施錠。玄関以外の出入り口は昼間も施錠している。ホームと近隣の住宅との間が離れていて、近所の協力が得にくいことや、外出傾向の把握がまだ十分でないため。	ホームの位置が近隣から孤立しているため、近所の協力は得にくい。入居者の行動パターンをよほどしっかり把握する必要がある
介護の基本の実行 8項目中 計			7	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。				一人ひとりなじみの食器を使用している。	
31	44	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。				咀嚼能力や一人ひとりの食べ方に応じた食事形態に配慮して居り、盛り付けの工夫もなされている。	
32	45	個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。				個別にカロリー計算をして献立を立てていないが、お茶碗に盛るご飯の量で加減している。水分摂取には特に注意している。	
33	47	食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。				職員も同じテーブルについて食べ方の混乱や、食べこぼしに対するサポートをさりげなく行っていたが、食事は各自弁当であった。	専門の調理員がいなくて、毎日違う人が調理を行っているため、味や、食べやすさなどを知るためにも、職員が同じ食事を摂るほうが良いのではないか。
		2) 排泄					
34	48	排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				一人ひとりの排泄パターンを把握した上でのトイレ誘導や排泄援助を行っている。	
35	50	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				さりげなく穏やかにトイレ誘導を行っている。	
		3) 入浴					
36	53	入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)				一人ひとりにあわせ、くつろいで入浴できるようにしている。	
		4) 整容					
37	56	理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)				同じ法人内に理美容室があるも、なじみの店に行きたいときは連れて行くことにしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	ブライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髷、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)				入居者の方(発熱して床にしている人を除き)は、着衣や髷の乱れは無く、食べこぼしのサポートもさりげなく行われていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。				夜眠れない人は、無理に眠らせようとせず、眠くなるまで夜勤者が話し相手をするとか、昼間できるだけ活動できるように援助するなどしている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			9	1	0		
		(3)生活支援					
40	64	金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。				金銭管理能力に応じてお金を使うことを支援している。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)				食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、入居者同士の世話など楽しみながら行っている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)				法人としての診療所があり、そのほか公立の総合病院との連携も保っている。	
43	73	早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。				よく相談し、協力し合っている。	
44	74	定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。				定期的に健康診断は受けている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	<p>身体機能の維持</p> <p>認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。</p>				外出や散歩、レクリエーションなどを生活の中に取り入れ、心身機能の維持向上に努めている。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	<p>トラブルへの対応</p> <p>職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。</p>				喧嘩やトラブルは殆ど無いが、不安や動揺の無い様に支援している。	
		(8)健康管理					
47	80	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)</p>				毎食後のうがいと、就寝前は必ず歯磨きやうがいを実施している。	
48	83	<p>服薬の支援</p> <p>職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。</p>				職員が手渡し、目の前で服薬を確認している。	
49	85	<p>緊急時の手当</p> <p>入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)</p>				軽い怪我程度しか出来ない。	訓練や講習等を行い、応急措置を身につけるようにされたい。
50	86	<p>感染症対策</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)</p>				手洗いうがいを励行した結果、世間でインフルエンザが蔓延しているときでも一件の発生も無かったが、調査日は、その数日前から下痢や発熱を起こしている人が3人ほどいるとの事で居室で休んでいた。	感染予防マニュアルを作り励行されたい。
医療・健康支援 9項目中 計			7	2	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				買い物や散歩に積極的に出かけるようにし、同じ法人内でのイベントへの参加も楽しんでいる。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				調査中たまたま家族の訪問があったが、歓迎され居心地よく過ごされていたし、普段も、身寄りのない人や遠隔地にしか身寄りのない人以外は、結構頻回に訪問にきている。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。				熱意を持って取り組んでいる。	
54	97	職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。				職員は介護そのものに関しては意見を述べるが、それ以外のことに 대해서는あまり発言の機会が無い。	従業者の採用や、運営方法等に関しても意見がしやすい環境を作り、職員の意見が反映されやすいように工夫されたい。
		2. 職員の確保・育成					
55	101	入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				ぎりぎりの人数のため、一人風邪でもひくとたちまちパニックになる。	入居者の生活の流れを支援するのに適したローテーションが組めるように少し人員にゆとりがほしい。
56	103	継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				研修にはあまり参加できていないため今後改善していくように検討している	研修の機会等に関する情報収集も必要であると思われる。
57	105	ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				「カラオケで思い切り歌う」とか、「ひたすら寝る」など個々に解消策を講じている	職員のストレス対策(たまらない工夫や上手な解消法など)を事業所としても工夫されたい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)				同一法人の中に特養もあるが、家族の強い要望により、要介護5の人も入居している。	
59	109	退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				退去の決定過程を明確にし、家族とよく話し合う体制がある。	
		4. 衛生・安全管理					
60	114	ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)				調理室周辺を始め、手洗いなど、きれいに保たれている	
61	116	注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。				薬や洗剤、刃物等は使いやすい位置に置かれているとか、管理がきちんとされている。	
62	118	事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)				緊急時対応のマニュアルは無く、管理者から家族への連絡網だけ出来ている。	早急にマニュアルを作成し、職員に周知徹底されたい。
内部の運営体制 10項目中 計			5	5	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	122	調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。				情報を積極的に提供しようとする熱意が感じられた。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	128	相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。				管理者はじめ担当者を明確にして対応している。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	131	家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的にやっている。				面会の機会に良く話し合うようにしている。	
66	132	家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）				「長寿」という季刊発行の広報誌を通じて様子を知らせていたが、発行が中断している。	復刊し、継続する工夫を期待したい。
67	135	入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的なその出納を明らかにしている。				入居者ごとの個別の金銭出納帳を作成管理をしており、家族にも提示している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			2	1	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	136	市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。				地元中学生の体験学習の受け入れや、介護実習生の受け入れなど行っている。	
69	139	地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。				取り組みとして十分とはいえないが、同一法人内の運動会や夏祭りなどに地域の人たちを誘っている	
70	141	周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）				地元スーパーへ入居者の方たちとよく買い物に行ったときなど、働きかけている。	
71	142	ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）				介護実習や、中学生の体験学習に提供している。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
 (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。